

月高だより

北海道札幌月寒高等学校
第 55号
令和8年5月12日発行
発行者 校長 黒島 敏

気がつけば5月も中旬、大型連休があるであつという間に日々が過ぎていきますね。今年の連休は前半の天気が今ひとつで、せっかくの桜も風で散ってしまい、まさに「花に嵐」の例えの如くでした。新車を買ったら飛び石が飛んできたとか、まだ携帯のなかった時代に、彼女の家に勇気を出して電話をしたときに限って必ず父親が電話に出るとか、とかく世の中は一筋縄ではいきません。

ちなみに私は連休の後半で山菜を採りに行きました。タラの芽、ウド、三つ葉、フキ・・・タラの芽とウドは天ぷらにいただきました。若いときは見向きもしなかった山菜ですが、年齢と共に苦みが良くなります。人生も甘いばかりではいかんですな。

■PTA 総会、定時制後援会総会

4月28日(火)の夕方にはPTA役員会が、5月1日(金)にはPTA総会と後援会総会が開かれました。全国の例を見るとPTAはなれたとかPTA役員の引き受け手がいないとか問題になっていますが、月高は多くの保護者の方が積極的に引き受けてくださっているようで、校長としてはありがたい限りです。

役員会での役員自己紹介の中で、「役員をやってみたかった」「学校に関わりたい」などの意欲的な言葉が飛び出し、その後の話し合いも活発な意見のやりとりが見られ、和やかな中にも、熱意のある雰囲気となりました。

1日(金)に行われた総会と、その後の学年懇談や研究会にも、連休谷間の平日の昼間にもかかわらず、たくさんの保護者の方がきてくださりました。

夕方に実施された定時制の後援会総会終了後の授業参観には本当に多くの保護者の方々が来てくださいました。生徒たちも日頃の様子を見ていただけて、喜んでいただいていると思います。

私の持論ですが、PTA活動の一番の意義は「教員と保護者がお互いの人となりを知ること」だと思っています。日頃から直接顔を見てコミュニケーションをとっていれば、お互いの疑心暗鬼から来る「よくある学校と保護者とのトラブル」の多くは回避できるのではないかと経験上思っています。是非今後とも学校へ積極的に顔を出していただければと思います。

■壮行会

7日(木)7校時、全日では高体連と高野連の大会に出場する生徒へ向けた壮行会が行われました。月高の部活動加入率は今年も80%でした。教頭先生によると「もう少し増えるのでは・・・」ということでしたが、連休中や週末も多くの運動系部活動が、練習試合や大会に臨んでいます。激戦区の札幌支部、多くの部活がベストな結果を残してくれることを期待したいところです。

8日(金)放課後に春季大会に出場する野球部へ向けて、吹奏楽部から応援演奏が行われました。毎年の恒例行事のことですが、グラウンドに並ぶ生徒へ向けて校舎の3階から響く演奏がなぜか胸にしみました。青春ですね。野球部の春季大会は11日(月)に札幌丘珠を相手に延長11回のタイブレークでサヨナラ勝ちしました!!。応援演奏のお陰ですね!

音楽と言えば、壮行会では私も激励ソングを歌わせていただきました。前任校では「応援歌」というのがあって、それを歌っていたのですが、生徒に聞いたところによると月高にはない(もしあったらごめんなさい・・・)ということで、大事マンブラザーズの「負けないこと〜♪」という歌をワンフレーズ歌いました。温かい手拍子をありがとうございました。

あいさつの中でも話したのですが、2011年に石垣島でシュノーケリング中の女性4人が離岸流に流され16時間にわたって漂流していたときに、助けが来るかどうか分からない中で励まし合うために4人で熱唱した歌なのだそう。

2011年当時で22歳(現在38歳)の女性がなぜこの歌を知っていたのかというちょっとした疑問はありますが・・・。ちなみに「高価な墓石を建てるより〜♪」という部分は歌わなかったそうです(笑)

■あとかぎ

教諭の頃、ALT(アシスタントランゲージティーチャー)の席の隣に座ることが多かったです。かつては欧米からが主流でしたが、最近は円安のせいで給与に魅力がないのか、中南米の方が増えました。昨年一緒に働いていた女性は、カリブ海のトリニダード・トバゴという国から来ていました。チャレンジ精神旺盛で、日本食に果敢に挑戦していましたが、セコマのカツ丼で体調不良になりました。カリブ海の人間には日本の甘辛は合わなかったみたいです。

別に私が英会話に堪能だったというわけではなく、たまたまその座席配置だっただけ。でも人間同士、なんとかコミュニケーションはとれます。常々思うのですが、英会話は英語力ではなくコミュニケーション力です。

隣に座ったのは、男女年齢国籍問わずでしたが、イギリスから来たミゲル君が一番印象に残りました。彼はオックスフォード大学卒のエリートなのですが、エリートあるあるで、腰は低いし、知的好奇心と教養があり、コミュニケーション能力も高かったです。ネットなどを駆使し、私は彼に日本文化を教え、彼はイギリスの社会制度や文化などを教えてくれました。例えば、イギリス人はお昼休みにパブでビールだけを飲んでランチとすることがあるのですが(!)それをウェットランチというか、イギリスの爵位(階級制度)などなどです。そんな彼は真夏でもシャツの上にセーターを着る英国人らしい男でしたが(暑くないの?と聞いたら恥ずかしそうに脱いでいました)、どんな場所にもラフな格好で来るアメリカ人をとても嫌っていました。我々から見れば欧米人というくりで、たいした違いはないのですが、日本人と韓国人・中国人、タイ人とカンボジア人など、端から見れば同じような文化を持つ隣国ほど、当事者同士の感情は色々あるのでしょう。

そんなミゲル君が興味を示したのは日本の軽自動車。軽自動車の規格が日本独特で珍しかったのかしら?机で一生懸命漢字の練習をしていると思ったら「軽自動車」と何回も書いていたのには爆笑しました。そして、お墓なんかには供えるビールのちっちゃい缶。「日本は何でも小さくする」と言って爆笑し、私が「アレはお墓に供えるもの」だと言ってもなかなか理解してくれなかった。

そんな彼も今は欧州で弁護士資格を取得し国連で働いているそうです。トランプ氏が大統領の1期目に立候補したときにはなぜかアメリカのことなのに、ずいぶん文句をたれてましたが、今の世界情勢を見てどう思っているのでしょうか?